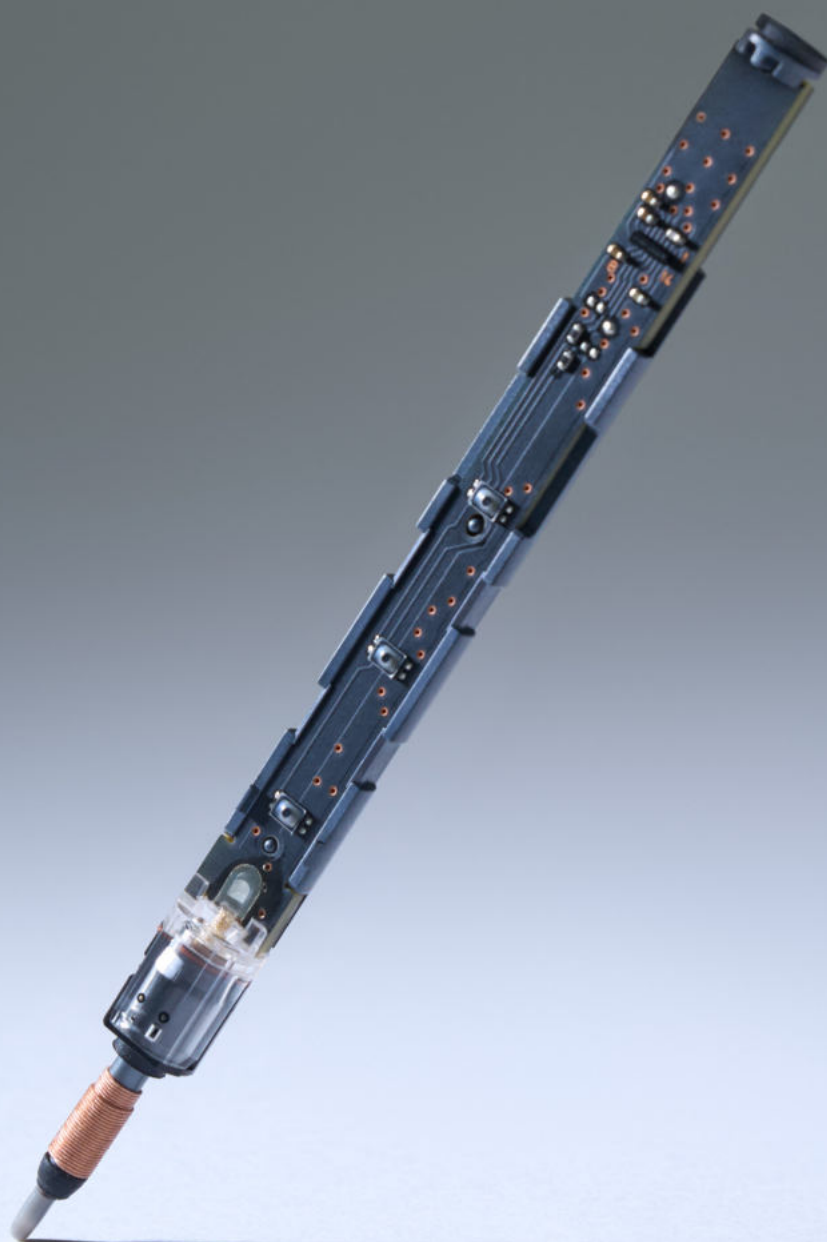


May 2023

WACOM

STORY BOOK

ISSUE | 1



今日だけは、ワコムのお話をさせてください。




Contents

- 04 ワコムが大切にしている「インク(Ink)」とは何か？
- 06 「今日だけは、ワコムの話をさせてください」
from 井出信孝 代表取締役社長 兼 CEO
- 18 【体験の旅】を届けるという約束
- 20 ワコムが届ける【体験の旅】とは
ライフロング・インクの実現へ向けて追求する3軸
- 24 ETCチームが実現する、これからの製品開発
「Wacom® Cintiq® Pro 27」開発の舞台裏
- 28 ワコム製品を操るクリエイターたち
- 34 「新しいエコ・システム」の青写真
- 36 革新的協業の軌跡
新製品の共同開発を行うレノボ、サムスン
- 38 未来へ向けたコラボレーション
Z会、パイロット、mui Labとワコムの取り組み
- 40 いつでもどこでもワコムがサポート
世界各地の日常に新たな【デジタルペン体験】を届ける試み
- 42 「世界は、まだまだ可能性に満ちている」
ビジネスソリューションの発想力
- 46 仲間と呼べるような「親しみ」を感じるテクノロジーを求めて
ハードウェア会社から【体験の旅】を届ける存在へと進化を続けるワコム
- 48 デジタルインクが紡ぎ出す新たな可能性: 「KISEKI ART」 「Wacom Yuify」
- 50 未来の体験価値は技術革新から生まれ出る
ワコムの根幹を担う開発リードが対談
- 54 世界を知る投資家・阿部修平は、なぜワコムに熱視線を注ぐのか
- 60 ワコムを取り巻くコミュニティ
多彩なパートナーと共創する未来
- 68 コネクテッド・インクは「クリエイティビティのおもちゃ箱」だ
- 70 ワコムの社会への取り組み
【心の灯り】を大切にしているワコム
- 72 ワコムの環境サステナビリティ
「テクノロジー・リーダーシップ・カンパニー」として推進する環境への取り組み
- 76 TCFD提言に基づく情報開示
- 78 ワコムグループのガバナンス
グローバルに活動するワコムグループのガバナンスについて
- 82 会社概要
- 83 価値創造を実現する6つの資本
- 84 ワコムの歩み
1983年の創業から現在までのワコムの軌跡
- 86 【Meaningful Growth】という問いかけ
測定可能な評価軸だけではない世界を目指して
- 88 Work of Art: 「創作2023」 by Bunta
- 90 感謝の手紙
- 91 編集後記



COVER PHOTO
Photographer: Sho Kato(timeties)
Retoucher: Masaru Miyamoto(alpharobe)



WHAT IS INK THAT WACOM VALUES?

想いや心の有り様を留めるものは
決して無くならない

ワコムが大切にしている「インク (Ink)」とは何か？

自分の子どもからもらった「ありがとう」のメモ書き。波打ち際に木の枝で描かれた落書きや告白。ノートの片隅に記された時や場所。指や道具で描き/書き付けられた線、そして線から成る文字や絵には表現の巧拙などはなく、触れるものの心に等しく小さな火を灯してくれる。こうした「想い」や「心の有り様」の込められた筆跡^{ストローク}を指して、ワコムでは「インク (Ink)」と呼ぶ。道具屋・ワコムの仕事は、デジタルでインクを「描き付ける/書き付ける」「刻み込む」「削り出す」ための道具をつくること。人間の人間たる所以のひとつと言える【描く/書く】を支えるには、その書かれた線であるインクを大切に扱うのは当然のことと言える。

ワコムが手がける道具は、デジタルペンや液晶ペンタブレット/ペンタブレットといったデジタルツール。ペンにインクが必要なように、デジタルペンで線を引くにはデジタルインクが欠かせない。デジタルペンの技術を磨き上げるだけでなく、デジタルインク技術も進化させなくてはならず、「WILL™ (Wacom Ink Layer Language)」はワコムを代表するデジタルインク技術だ。一般的に、アナログインクは時間の経過や環境の変化によって影響を受け、次第に劣化し、いずれ消え去っていく。例えば『古事記』。現存する最古の写本は南北朝期に編まれたもの。この「真福寺本『古事記』三帖(国宝)」は成立から1,000年も経っていないが、細心の注意を払って保管・修復されなければ、そう遠くない未来には朽ち果てる運命にある。翻って、デジタルインクはどうだろうか。デジタルインクは時間と空間を超え、記録・保存・複製・移動など、アナログインクが苦手とする課題を解決してくれる。さらに、感情や思考といったアナログでは難しかった情報の捕捉・解析・保存をも可能にし得る。デジタルインクには、未だ私たちが知らない無限の可能性が秘められていると言えるだろう。

人間が存在する限り、【描く/書く】という行為が無くなることはない。技術の進歩によって「インクが記されるもの(対象物)」は土、石板、パピルス、羊皮紙、紙、ペンタブレットへと変化を遂げた。もしかしたら、近い将来、インクが記されるものはさらに変化し、最終的に何もなくなる可能性もゼロではない。しかし、人間がその想いを込めて【描く/書く】という本能・衝動は消えないはずだ。ワコムが寄り添いたいのは、この【描く/書く】という人間のひとつの本質。だからこそ、道具屋であるワコムはモノをつくるだけでなく、ペンを通じた体験を提供していくことに情熱を注いでいくのだ。